

市長記者会見記録

日時：2026年6月9日（火）14時00分～14時33分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《個人情報流出について》

【司会】 ただいまより、定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入ります。まずは幹事社様からよろしくお願いたします。

【読売（幹事社）】 読売新聞です。よろしくお願いたします。昨日、宮前スポーツセンターから、スポーツ教室に当選した方のメールアドレスが誤って流出したという案件があったんですけれども、個人情報の流出について昨年度、川崎市は個人情報保護委員会から四度指導を受けていて、今年度は4月にも指導を受けたばかりで、今回の事案についても既に個人情報保護委員会に報告を済ませたと伺っています。こういうふうが続いていることについてどう受け止めるかというのと、市の職員だけに限らず関係者、今回は指定管理者だったと思うんですけれども、そういった職員の方に個人情報の遵守についてどういう指導を今後行っていかれる予定かというのがあれば教えてください。

【市長】 昨年に引き続き、個人情報の取扱いに関する不祥事が本当に相次いでおりまして、大変深刻なものだと受け止めています。本市の職員だけでなく、指定管理でありますとか、あるいは委託をしている事業者からの扱いについてもこういったことが続出しているのは、内部統制委員会のところでも、去年もそうですし、今年も重大な不備がないからといって看過できるような状況ではないと思っております。これまでも言ってきたところなんですけれども、改めて個人情報とは何かということ、何が個人情報に当たるのかということをしっかり組織の一番先、現場まで至るようにちゃんと徹底をしてくださいということも、今日も定例局長会議でお話をいたしました。依命通達も出して、その上で、以前にもこれを徹底してくださいという話をどこまでちゃんと徹底できたのかということを確認をしていただきたいということを改めてお願いしましたのと、やはりこういった個人情報が出たとか、あるいは不祥事があったときに、私のところまでというか、幹部職員のところまで届く時間が長いと

いうケースもあつたりして、普通に考えると、ちょっとあり得ないなということが起きております。そのことについては、コミュニケーションが極めて不足しているのではないかということも今日も指摘をさせていただいて、このような通達を厳しくすれば、これが是正されるかということだけではなくて、やはりコミュニケーションだったり、伝わっているつもりがという確認の甘さみたいなところを最後まで徹底しようということを改めて、今日も依命通達をさせていただいたところであります。

また、これまでも、個人情報が何かという概念がちゃんと徹底していないことによって、本来取る必要もない個人情報を取っていたりということもケースとしてはありましたので、そういったところも含めてしっかりとチェックしていくことが必要だと思っています。いずれにしても非常に深刻な事態だと受け止めておまして、川崎市の信頼を揺るがすものであります。しっかりと徹底してまいりたいと思っています。

《FIFAワールドカップ2026について》

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。話題変わらしまして、サッカーのワールドカップが間もなく開かれると思うんですけれども、川崎市ゆかりの選手も大分日本代表に選ばれていると思います。改めて楽しみといいますか、期待、エールなどを送っていただけたらと思います。

【市長】 本当に川崎ゆかり、あるいはフロンターレゆかりの選手が多数選出されているということは、川崎市民にとっては大変誇りなことでありますし、ぜひ日本のために全力を尽くして頑張っていたきたいなと思っています。個人的には三笥さんが残念という話をよく聞くんですけれども、今回、三笥さんを含めて、残念ながら出場できない人の分まで思いを背負って頑張ってもらいたいなと思っています。優勝を目指してということでもありますので、ぜひその感動を私たちに届けてもらえることを心から期待して応援したいと思っています。

《SHISHAMOについて》

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。また、市のゆかりの今度アーティストの話題をさせていただこうと思うんですけれども、今週末、SHISHAMOがラストコンサートを開かれるということがあると思います。市制100周年のときなんか、SHISHAMOの皆さんが活躍されたりですとか市に御協力されたりということがあったかと思っています。コンサート、市長、見に行かれるのかというのと、どういうふうに市からの感謝といいますか、SHISHAMOへの思いみたいなのがあれば教えていただければと思います。

【市長】 まず、私もラストコンサートにお邪魔させていただく予定にしております。

SHISHAMOが川崎市に貢献してくれたことというのは多くのものがあり、本当に大きなものがありました。そういった意味で、市の職員でもボランティアというか、部活動が立ち上がって、SHISHAMOのラストコンサートを盛り上げるために、自主的に集まって企画を考えたり、当日はビラを配ったりという形で、最後までSHISHAMOに感謝を伝えようという形が自発的になっているということは、私たちの感謝の気持ちの一端がすごく発露されているなとうれしく思っています。

一方で、やっぱり解散ということなのでとても寂しくなりますが、彼らが届けてくれたメッセージ、歌はこれからも残っていきますし、校歌の話もそうですけれども、永遠に歌い継がれていくと思いますので、これからもよろしくお願ひしたいと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社からは以上です。

【司会】 それでは、幹事社様のほかに御質問される場合には挙手をお願いいたします。

共同通信さん。

《障害児通所支援事業所における不正請求について》

【共同】 共同通信です。よろしくお願ひします。先日、市から発表されました市内の放課後等デイサービスを運営する事業所の不正受給の件についてお聞きしたいと思います。全国の障害福祉サービスの運営事業者による不正受給事案というのが2020年から24年度の5年間で、全国で80億円に上るというニュースも先日ありました。種類別でも放課後等デイサービスの事業による不正受給が3分の1以上を占めるということらしいんですけども、その中で川崎市でも先日、放課後等デイサービスを運営する事業所で3.9億円の不正受給が明らかになっておりまして、前年度も同じような事業形態のところは不正受給をしたというような、行政処分をしたというニュースがありましたけれども、こうした事案が続いているというところで、指導する側の市としての受け止めをお伺ひしたいと思います。

【市長】 ありがとうございます。放課後デイの不正受給のことについては、今回の多額な不正受給については大変遺憾でありまして、激しい怒りとしか言葉が見つからないほど、そういう思いであります。それと監査をする体制というのを整えていかなくちゃいけないということではありますけれども、事業所の数も過去5年間で160%増ということでありまして、本当に多くの事業者がこのサービスに参入しているということでもあります。

この事業自体は必要な事業だとは思っておりますけれども、しかし、内実いろいろ、しっかりできているところと、なかなか質がというところも大分差があるという話も聞いていますし、どういうふうに適切なサービスを利用者の皆さんに届けることができるのかということをしっかり整えていかなくちゃいけないと思っています。

その点については今、国にも制度の在り方というのを、市のあれですけれども、市の正式な要望以外にも、厚労副大臣に私以前にもお話ししたことあって、これは本当に問題だと、ある意味許可制でなく届出という形でどんどん事業所が増えていくという状況ですので、監査体制はもちろんのことですが、今御質問でおっしゃっていただいたように、他のサービスではちょっと考えられないような不正というものが起きていると。本市もそうですけれども、他都市でも全国的にそういうものが増えてきているということは深刻な問題だと思っています。ですから、利用される方たちに適切なしっかりとしたサービスを届けていくためにも、しっかりと精査して、国に伝えるべきことを伝え、制度を変えるべきところは変えという形でやっていかなければならないのではないかなと現時点では考えております。

【共同】 ありがとうございます。先ほどの話でも出たように、指導体制のマンパワー不足みたいなところもあるかと思うんですけれども、今回のことを受けて、特に同種施設への指導強化など具体的な方針とかは今のところは何かありますでしょうか。

【市長】 今、指導強化、監査の在り方だとか、どういうふうにやっていくのかというのは検討しているところでありますけれども、当然改善はしていく、市で改善できるところは市でしっかりと改善していきたいと思います。それと、根本的なところは、国の制度の在り方についても伝えていかなければならないのかなと思っています。

【共同】 ありがとうございます。

以上です。

【司会】 そのほか御質問……。

東京新聞さん、お願いします。

《不開示情報のマスクングの不備について》

【東京】 東京新聞です。先ほどの読売さんの質問にもちょっとつながるのかなと思うんですけれども、教育委員会のほうで、教育委員会議の資料の個人情報の黒塗りが外れる状態でウェブにアップされていたということが明らかになりましたけれども、それも結構な長期間だったかなと思うんですが、ああいう処理の仕方というのは、教育委員会だけではなくて、ほかの部署でもあるんじゃないのかなみたいなことを感じて、それに対して市長としてはどういうふうに受け止められているのかというこ

とと、あと先ほど、どこまでが個人情報でというお話もありましたけれども、例えば公文書開示請求したときに、ここまで黒く塗らなくてもよくないみたいな、とりあえず全部黒塗りにするみたいな対応されることもあるので、そういう過剰な隠し方もどうなのかなと私は思うんですけれども、その部分をどういうふうに感じていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 後者の部分については、事案に応じて適切に対処されているものだとは思っておりますけれども、具体的なものがありましたら、ぜひおっしゃっていただければと思っています。

1つ目の話は、ごめんなさい、何でしたっけ。個人情報の……。

【東京】 ほかの部署です。

【市長】 ほかの部署ですね。すいません。ほかの部署は、この事案がまず出てきたときに、これは一体どういうことというので私も説明を受けました。こういう機能が実はあるのかと。こういう抜けみたいなものがあるのかというのは、すいません、正直、私も初めて今回、知りました。これはやっぱり危ないねということで、分かったときからすぐ、総務企画局長から各局に対して、同様な事例の可能性があるのでということで注意喚起を行っております。これほどDXみたいなものが進みますと、やったつもりがまさかこんな機能がということはあるんだと思います。言い訳がましいですけれども、しかし、これからもあり得る可能性があるもので、こういった気づいたところをすぐに是正していく体制を強化することも大事かと思っています。

【東京】 教育委員会議の資料のように、個人情報を含むファイルをウェブで上げている部署ってそんなに多くもないのかなという気がするんですけれども、例えば今回の例のように、市が結果として個人情報が見える形で出してしまっていたということが分かったら、それはまたそのときに発表していただけるのでしょうか。

【市長】 要するに、不適切な情報の出し方みたいなのがあった場合には……。

【東京】 そうですね。ほかにも見つかったら。

【市長】 同様なケースが見つければ、そのように発表させていただきます。

【東京】 よろしく申し上げます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

神奈川新聞さん。

《児童虐待相談・通告件数について》

【神奈川】 神奈川新聞です。先日、川崎市から発表された児童虐待相談と通告件数に関してなんですけれども、令和7年度の件数が6,303件ということで過去最多

でしたけれども、市長としてまず受け止めを教えてください。

【市長】 非常に件数が増えていること自体は深刻な問題だとは受け止めておりますけれども、数だけ見てはいけないかなと思っています。発見だとかという、心配になって通告したり相談したりということもありますので、それが表に出てくること自体は、むしろ見方によってはいいことだとは思っています。それを正しく検知して、最後までアセスメントしていくことが大事なことだとは思っておりますので、単純に数だけでよしあしを測るべきではないと思っています。ただ、これだけ増えているんだということは深刻に受け止めなければならないと思っています。

【神奈川】 先ほど、表に出てくることは見方によってはいいとおっしゃられましたけど、今回、中でも心理的虐待というところが一番割合を占めているといったところで、なかなか外から見えにくい部分というところで、市として今後対応ですとか、何かあれば教えていただければと思います。

【市長】 いろんな相談だとか窓口だとかというのもつくっておりますし、今御質問いただいたように、心理的虐待というのは非常に難しい課題だとは思っています。なかなか見えにくいし、人それぞれという部分も、私の理解が正しいかどうか分かりませんが、しかし、こういったところにしっかりと相談できるような、あらゆるチャネルを増やしていくとか、こっちでも受け止める、こっちでも受け止めるという形で、ちゃんとしたところにつながっていくようにしなければならないかなとは思っております。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

毎日新聞さん。

《上下水道料金の値上げについて》

【毎日】 毎日新聞です。先日、上下水道料金について環境委員会で、水道料金の改定率は20%台前半、下水道の使用料は10%台前半という方向性が示されました。この値上げについての受け止めと改定率の妥当性について、市長はどのようにお考えでしょうか。

【市長】 専門家の皆さんがしっかりと御審議いただいて、これから持続可能な上下水道の在り方というものをお示しいただいて、適切な料金改定率というものはこうあるべきだということをお示しいただいたことは本当にありがたく思っておりますし、真摯に受け止めなくちゃいけないと思っています。今後、そのためにどうやって市民の皆さんに御負担を願うのかということについては、行政側でしっかりと判断してい

かなくちゃいけない内容だと思っっていますが、それぞれ上水と下水のところは経営状況が若干異なる部分もあります。大きな方向性としては変わりはありませんけれども、資金残高の問題だとかということには違いがありますので、それに応じて料金の改定を考えていかなくちゃいけないなどは思っています。

いろんなところで物価高騰が続いている中で、上下水道料金もという形で大変心苦しくは思っておりますけれども、しかし、持続可能な形にしていく、独立採算という法的なこともございますので、それに従って、なるべく市民の皆さんに御負担をかけることがないような選択を考えていきたいと思っています。

【毎日】 この改定率は現段階では妥当だとお考えでしょうか。

【市長】 どちらの、示されたということですよ。それは妥当だと思います。それをどう受け止めるかという、どう運用していくかということはその先の話でありますけれども、答申についてはそのとおりだとは思っています。単純というか、こういうふうにすればこういう形になりますよね、将来もこうなりますよねというのは極めて客観性のある数字だと私は受け止めています。

【毎日】 答申だと、三十何%、二十何%、それに対して20%台前半から10%台、ある程度抑えたところについては妥当だとお考えでしょうか。

【市長】 そこも本当に妥当というか、そこが今考え得るところだろうという受け止め方をしておりますけれども。

【毎日】 ありがとうございます。

【司会】 神奈川新聞さん。

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、今の水道料金に関してなんですけれども、あの考えの中には、数年後にもう一回見直しをしましょうというようなことが書いてあったと思うんですけれども、これはやっぱり物価高騰に対してのスピード感に、1回で決めちゃうともう対応できないというような狙いなのか、その辺はどういうふうに見て、市長、ああいうようなのを受け止めているんでしょうか。

【市長】 まず、私の受け止めとすれば、答申で示されたとおり、一気に上げようとするとな変な市民負担になることはもう明らかです。そういうものをどうやって、負担をなるべく一気に増やさないようにしていくかというのは幾つかの方法があると思うんですけれども、そういった中の一つだと私は思っています。

【神奈川】 川崎市は水が安いということをさんざん誇らしく語ってこられましたけれども、そのベースが崩れてしまうことに対しては……。

【市長】 この前の等々力の話もそうなんですけど、別に安さを売りにするわけでは

ありません。川崎市の上下水道、これまでも構造改革をしっかりとやって、そして、耐震の備えだとか、あるいは老朽化の備えということもしっかり基盤を計画的にやってきたということは誇るべきことだと思います。そこをやるためには、当然料金の中でやっていかなければならないことなので、瞬間的な料金の多寡ということでは、持続的な市民の水あるいは下水は守れないということは、しっかりと市民の皆さんに、まずは御理解をいただくことが大事だと思います。料金の多寡だけでいい悪いというのを言ってしまうと、御案内のとおり私たち、申し上げた、老朽化だとか耐震化の整備というのはほかの都市に比べて随分と進んでいます。これがまず市民に対する責任だと思っていますので、そこをぜひ御評価いただけるように説明を尽くしていくと。その上で、独立採算ということもございますので、なるべく料金を上げることなくやる方法はどういうことなのかということをご丁寧に説明していくことが大事だと思っています。

《令和8年台風第6号について》

【神奈川】 ありがとうございます。あとちょっと話が変わるんですけども、先日の台風6号の影響で、川崎市は今回の台風6号についての受け止めというか、その辺はどういう……。

【市長】 ありがとうございます。現時点では罹災証明が2件出ているということで、雨漏りということでもありますけれども、出ていることから、今回被災された皆様にはお見舞い申し上げたいと思います。

その上でやっぱり、今回の台風の雨量、風というよりも雨のほうが大きかったということなので、それが出勤だとか登校だとかという時間帯に重なるようなタイミングで来る、それも数時間ずれたりとかという非常に見極めが難しいタイミングだったというのが、対策として非常に悩ましかったと思います。前日から警戒本部を立ち上げて、どういふふうに対応していくかということについてやってきましたけれども、やはりこれから臨機な対応をしていかななくちゃいけないなと思っています。

特に今回、判断基準のレベル3とかレベル4とかという形が変わった瞬間なので、皆さんにどういふふうを受け止められるかというのは、私たちにとってもチャレンジだったと思っています。ルールどおりにやることの難しさとルールどおりにやってしまうと危ないということと両方学んだような気がします。例えば、もう登校しちゃっています、あるいは保育園に預けていますっていったときにレベル4になると、レベル4ということは、そこから退避していただかなくちゃいけない、帰さなくちゃいけないという話になるわけですけども、そんなものはできるはずもなく、一番危ない

ところに人を外に出すのかという話というのは、ルールどおりやるとそうなっちゃうということなので、ルールはルールとして、それをどうやって運用していくかというのは行政としてもそうですし、市民お一人お一人がどういろんな災害に対して自分が向き合うのかという判断力も当然高めていかなきゃいけないとは思っていますので、そういったことも市民の皆さんにちゃんとお伝えしていくことが大切だなということに改めて感じた次第です。

【神奈川】 特に小学校、中学校、高校、特に県のほうが先に、高校は広範囲から学生が来るからというところで代休を取りましょうと。川崎市内のほうは、朝のレベル感で判断しましょう。レベル感で判断したら、宮前区に関してですけど、小学校は通っているのに中学校は休校になったとか、親としても非常に大変だったと思うんですが、これは今回が初めてのケースだからこういうふうになったのか、それとも、今後こういう場合は一気に休校にしたほうが安全だねとか、その辺の今後の展望としてはどう捉えられていますか。

【市長】 まず、宮前区の場合は非常に特殊ケースだとは思いますが。まさに御近所のところで特殊ケースが発生したので、それは学校長の判断としては当然あり得るケースで、基本は学校長の判断という形になるんですけども、しかし、それは学校長に台風が迫ってくる時の判断を委ねていくのは極めて酷だということを教育長とも前日に相談して、まず、あしたの朝来ることはもう分かっているんで、前日の昼の早い段階で第1段階の措置を取りましょうということをお話ししました。それもなるべく3時ぐらいまでにお伝えしないと、親の働きの手配が、次の日のことが用意できないということがあるので、まず、今の状況で分かる判断を早めにしようということで、翌日はとにかくどういう状況であれ、休んだとしても休校扱いしないということをもまず第1段階で決めました。

その後の判断というのは、その後で、6時までの判断というのはある意味保護者は慣れている。風水害のときもそうですけれども、暴風警報が出たときというのは6時になるというのは、親であれば大概知っているという時間帯ですので、そこでの判断になるかと思いますが、それプラス、レベル3、レベル4とかという話になってくるので、なかなか難しい判断ではありましたが、小中学校の対応と、それからもう一つ、御兄弟とかもいらっしゃるケースというのは、例えば保育園の話というのが同時に絡まってくるので、小学校は小学校、保育園は保育園という別口で考えるということとはなかなか難しいことがあるので、そこは非常に難しい判断ではありましたがけれども、事前にこども未来局、教育委員会、そして私含めて危機管理監、こういった幹部

の職員でしっかり連携が取れていたと思っています。どの選択をしても一定の御不便をおかけするので、御批判はあるということは十二分に承知しておりますけれども、これからも正しい判断ができるように磨いていきたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。

時事通信さん。

《特別市について》

【時事】 時事通信社です。特別市なんですけれども、申し訳ございません。先日、横浜市が4首長懇談会ですか、県に出されたと思うんですけれども、その後、何か連絡というか、打診というか、そういった何か……。

【市長】 いや、まだ正式にお答えがありません。

【時事】 あれは9月末までお願いしますという感じでしょうか。

【市長】 そうですね、に開催したいという形でお話ししておりますので、その返事を待っているという状況です。

【時事】 知事会とか夏にいろいろ会議を開いて、その後、いろんな要望に行くと思うんですけれども、その前ぐらいまでに何かという考えとかございますか、要望というか。

【市長】 早ければ早いほどいいと思うんです。というか、多分相当誤解されている部分だとか、あるいは私どもとしてもお示ししていただきたいものもありますし、しっかりと冷静な議論をしたほうがいいと思いますので、早く開催することが望ましいのではないかなとは思っています。

【時事】 じゃ、今のところはまだ来てないということですね。

【市長】 そうですね。

【時事】 分かりました。すいません。また後日聞きます。

【市長】 よろしくお願いします。

【司会】 東京新聞さん。

【東京】 東京新聞です。今の質問に関連して、知事のほうで4首長でやってももう意味がない、県内全市町村でということも発言されたと聞いていますけれども、それについてはどのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

【市長】 私も報道ベースで記事を読んだだけですけれど、ちょっとよく分からないですね。何でという。ちゃんとした4首長懇談会という正式な会議体があるし、そこで議論すればいいんじゃないですかと思っていますし、門戸も広げているんだみたいな

話も知事は言われているから、ぜひ提案には乗っていただいてやるべきだと思います。市町村の皆さんについては、市町村の皆さんで適時御説明というか、私たちの考えを伝えていくということは、その機会はしっかりやっていくべきだとは思いますが、それはそれ、これはこれという話だと思います。

【東京】 あくまで知事に対しては4首長で、また別の形で市町村に対しては説明もしていきますという。

【市長】 基本的には、県の主張に基づいて、市長会の一部だとか町村会の人たちという話になっているので、県の主張がちょっと違いますよねという、ミスリードだっで私たちが言っているものに対して意見をするのであれば、県と私たちでお話しするというのは当然の話だと思っていますので、運動論みたいにしてもあまり意味がないんじゃないのという、まともじゃないよねと思います。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当